



ふくろやタオル

袋谷タオル合資会社

“渡して喜ばれ”“もらってうれしい”すぐに使えるタオル

企業概要

創業大正15年の泉州を代表する老舗タオルメーカー。

他に先駆けてジャカード織機を使用した袋織り手法による名前を織り込んだタオルを開発し、生産の効率化、小ロット化に対応するためデザインシステム（CGSシステム）とダイレクトジャカードを導入した。世界でいち早くタオル生産のコンピュータ化を行うなど、常に時代の変化を先取りしタオルづくりに情熱を注ぐ。

代表者：袋谷 謙治
創業年：1926年（大正15年）
事業内容：袋織・ジャカードタオル等の企画・製造・販売
従業員数：9名
住所：大阪府泉佐野市旭町3-37
電話番号：072-462-2288
HPアドレス：<https://www.fukuroya-towel.com/>



代表製品



「5つの大阪野菜の雫から、7色のタオルができました。」

雫～SHIZUKU～

大阪の新鮮な特産野菜。

その絞りかすや、廃棄される果肉部分、形が不揃いで販売できず加工品になってしまうもの等を使用し、独自の技法によりタオルを染色することで、野菜が本来持っているやさしい色彩や、味わい深い色味を褪せることなく表現しています。

「繊維の将来宣言」Pick Up!

自社の強みを生かした経営で価値を高める

- ・多品種・小ロット生産が可能であることを生かし、多種多様なオーダーに応える。
- ・ブランドサイトの充実、クラウドファンディング等の活用で「B to B」から「B to C」へも挑戦。

「メイドインジャパン」に満足するのではなく、独自の価値を世界に発信・提供する

- ・自社ブランド製品を開発し、海外等の販路開拓にも取り組む。

持続可能な線に産業の在り方を模索し、社会課題の解決に貢献する

- ・化学糊を使わず、デンプン糊を使用し、環境に配慮した生産方法を徹底。
- ・伝統的な泉州の「後晒し」製法により、使用水量を抑える。
- ・地域の学校と連携し、綿花の栽培を授業に取り入れ、地域貢献を行う。

取組紹介

【自社ブランド立ち上げ】

創業以来、泉州タオル産地の一企業として「BtoB」向けに品質の良いタオルを製造販売していましたが、旅行で道後温泉に行った際、愛媛県の松山空港の売店に今治タオルがたくさん売り出されていたことを知り、他方で、当時泉州タオルの地元である関西国際空港には泉州タオルが全く売り出されておらず、自社製品開発及びブランド力向上の取組が必要と痛切に感じたことがキッカケです。以来、各種補助制度の活用等による設備投資を行いながら自社製品の開発を行ってきました。

【国内外に向けた販路拡大】

自社製品の開発に関しては、これまでの商流とは異なる「BtoC」向けの取組が重要となります。国内向けには、各種ECサイトやクラウドファンディングを活用した販売、海外向けにはJETROの海外取引支援制度等の活用や展示会出品などで、自社ブランド商品の品質の良さのPRや知名度を高める活動をコツコツと実施してきました。また、航空会社の機内販売にも取り上げられました。

【SDGsに通ずる環境に配慮した取組】

タオルの原料は“綿花”です。東日本大震災の際に、塩害を受けた畑と農業をささえるボランティアに参加したことがキッカケで、農業をされている方と天然素材を活用した取組ができないか模索するようになりました。そうした経緯から、友人の農家の協力や人の出会いがあり、大阪野菜を原料に廃棄される野菜や皮を使って染めた「雫タオル」を開発するに至りました。水なすを分けてもらっている従妹の結婚式の引出物に、試作中であった泉州なす染めの「雫タオル」を出したところ大好評。様々な人の目にとまり、環境にやさしいタオルとして2019年のG20大阪サミットに提供されるまでになりました。また、中小機構の共創事業にも参加した事でパッケージの開発にも役立てました。

他にも、昔ながらのデンプン糊を使用し、泉州タオルの後晒製法を行う事で、排水の水質にも配慮したモノづくりを行っています。やわらかい色だけでなく高い吸水力も特徴で、まっさらな状態からすぐに使う事ができます。



【雫～なす染め～】

今後に向けて

大阪タオル工業組合の若手グループも参画し、泉州タオルの「水とともに生きる 泉州タオル」というブランドコンセプトを元に、PR動画やSNSを活用しての情報発信や地元企業とのコラボレーション等、2025年大阪・関西万博時にグローバル市場でも認知される日本を代表するタオルブランドとなることを目指します。

経営者からのメッセージ

泉州タオルが誕生して134年を迎え、産地にも大きな時代の変化が訪れています。

長年続いてきたギフト需要から、生活者が自分たちのライフスタイルに見合ったタオルを選択する時代。メーカーに対しても個性的かつ独自性が要求されています。これまでの生産の仕組みを変えたり、研究開発や市場開拓に力を注いでいかなくてはなりません。

泉州タオルには、先人たちから受け継いだ、世界に誇るべき技術とノウハウがあります。この恵まれた資産をフルに活かしながら、積極的に新しい試みを実践し、その先にあるオリジナリティを模索し続けていきたいと思えます。

(代表：袋谷 謙治)



泉佐野市からのメッセージ

繊維産業が積み上げてきた一つ一つの実践が、地域の人を紡ぎ、まちを創造してきました。コロナ禍といった苦境を乗り越え、地域のみならず、日本中の人やまちにとって多くの示唆に富んだ事例になることを期待しています。

(泉佐野市 生活産業部まちの活性課 井尻氏)